地域社会

医療最前線 ▶113

五省会西能病院②　西能クリニック院長　山田 均さん（70）

健康は歩行から

高齢化社会が進む中、健康寿命をいかに増進するかが社会的な問題となっている。西能クリニックの山田均院長は「まずしっかり歩けるように、手や足などの健康を維持することが重要です」と語る。

歩くことができなければ寝たきりになってしまって、認知症のリスクも高まる。近年は県内でランニングやウオーキングイベントが多数開かれるようになった。けがの治療だけではなく、けがをしないような運動の方法も指導には欠かせない。

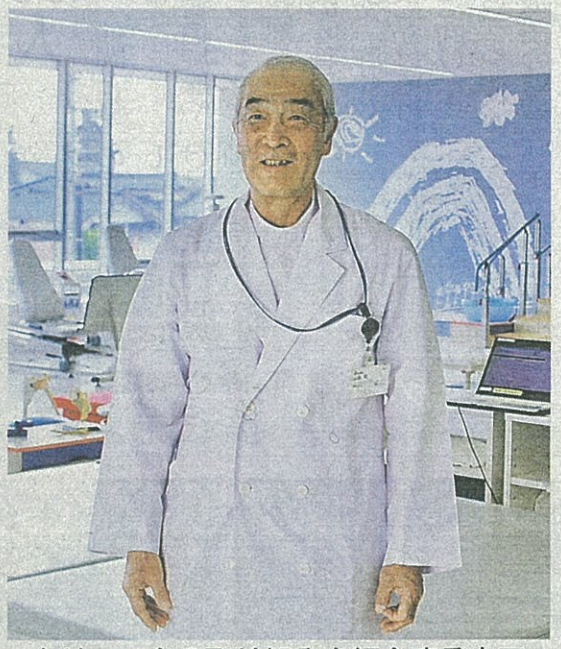
山田さん自身もスポーツドクターである。「自分の体の状態を把握し、それに応じた生活を送ることが健康には不可欠です」と強調する。ランニング障害や投球障害の改善に取り組むだけではなく、マラソン大会に参加するランナーを対象とした講習会といった、地域のニーズに即したサービスの提供を始めている。

外来休みは年3日

西能クリニックでは1988（昭和63）年以来、元日とお盆の8月15日、創立記念日の春分の日以外は外来患者を毎日診察する。けがは突発的なもので、いつでも対応できるようにしたいという、五省会初代理事長の西能正一郎氏の強い思いから始まった。

平日は約400人、休日は200～300人が受診する。西能クリニックは正式名称を「整形外科センター西能クリニック」としている。整形外科センターを名乗るのは、専門医としての使命を肝に銘じ、けがをした人がいつでも駆け込める場所でありたいとの思いからだ。

毎日訪れる患者が治療に専念できる環境も大切となる。医師が患者と向き合い、質の高い診療をするため、医療事務作業補助者を置き、案内係の人数を増やした。クリニックの2階は全てリハビリテーションスペースとなっており、柱のない広い空間でリハビリを受けられる。山田さんは「子どもからお年寄りまで、みんなが元気に運動を楽しみ、長生きしてほしい」との思いを胸に毎日の診療に当たる。



クリニックの取り組みを紹介する山田さん　―富山市の西能クリニック

やまだ・ひとし　東京都墨田区出身。千葉大医学部を卒業後、富山医薬大整形外科助手や高岡市民病院副院長などを歴任し、2012年から現職。